

教育目標		未来を創造し、たくましく生きる生徒の育成 ～家庭・地域とのつながりによるレジリエントな学校を目指して～								
重点目標		1授業改善(主体的に学ぶ生徒の育成、学力向上…10の視点を意識した授業づくり、GTの見直し) 2教育相談体制の充実(ふりかえる帳の活用、不登校対策…校内支援センターの充実、支援員との連携) 3保護者、地域との連携(周年行事、情報発信…タイムリーな情報発信)								
施策	実施施策の目標	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価		
学校教育	知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	「確かな学力」の育成	①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携 ④情報活用能力の育成 ⑤英語教育の充実 ⑥デジタル化の促進	①授業方向を目指した授業改善の校内研修会を実施する。 ②誰一人取り残さない個別最適な学びを実現する。 ③家庭・地域と連携し、学力向上、学びに向かう力を推進する。 ④ICT機器の活用能力の向上を目指し、デジタル社会を見据えた教育を推進する。	①研究テーマの実現に向け、新しい課題を見つけ、主体的に学習を進める子どもが育つとし、それを踏まえた授業実践を行っている。 ②ICT機器を効果的に活用し、生徒一人ひとりに応じた学びの場を設定する。評価方法について、研修会を実施する。 ③ホームページや学校通信等を通して、家庭や地域に積極的に情報を発信する。また、地域での生徒ボランティア活動を推進する。 ④⑥ICT機器の活用能力の向上を目指し、生徒の興味・関心を高め、学びを深める授業づくりに務める。また、個別最適な学びや協働的な学びの質の向上を図る。	①授業アンケートの実施3回、指導主事の招聘3回以上、研究授業・事後研修会3回を実施し、生徒質問「授業は楽しく、わかりやすい」と「先生は教え方いろいろと工夫している」の肯定的回答を80%以上にする。 ②「先生は適切に評価している」について生徒質問、保護者教師の肯定的回答を92%以上にする。 ③学校通信20号以上発行し、保護者質問「学校の情報発信」の肯定的回答が95%以上にする。また、ボランティア活動を積極的に推進(年3回)する。 ④⑥生徒質問「授業の工夫」の肯定的回答が93%以上、保護者質問「授業の工夫」の肯定的回答が80%以上、教師用「意欲を高める授業作り」の肯定的回答が95%以上にする。	B	①生徒質問「授業はわかりやすく楽しい」は80%、「先生は教え方いろいろと工夫している」は94%に上がり成果がみられた。また、市内研究発表会の充実にむけ、授業研究会や指導案検討会に大学教授や指導主事をその都度招聘し、授業づくりについて職員全員で取り組むことができた。 ②「先生は適切に評価している」の回答が、生徒が94%、保護者が96%、教師が94%と、目標を達成することができた。 ③学校通信は25号以上を発行し、積極的に情報を発信することができた。地域での行事に多くの生徒が参加することができた。また、保護者質問「学校の情報発信」の肯定的回答が98%と、目標を達成することができた。 ④⑥生徒質問「授業の工夫」は肯定的回答が94%、保護者質問「授業の工夫」は肯定的回答が88%と目標を達成することができた。ただ、教師用「意欲を高める授業づくり」の肯定的回答は91%であり、目標を達成できなかった。	①毎学期末に行っていた授業アンケートを、「主体的・対話的で深い学び」の実現状況を知るため、SoTN質問紙に変更する。また、主体的な学びの促進に欠かせない心理的安全性構築に向けての環境づくりにも取り組んでいく。 ②評価について、学習の手引きは教室で保管しているが、保護者にも教育活動内容や評価基準について理解を求める必要がある。 ③家庭や地域との連携を、より一層充実させ、効果的な教育活動を展開する。引き続き、ホームページや学校通信、等を活用し、本校の情報を積極的に発信する。また、学びポケットの積極的な活用を推進する必要がある。 ④⑥生徒の中には隙間時間を使ってミライシードに取り組むような生徒も見られている。また、授業だけでなく学級経営などでもスキルタクトを扱う機会が増えており、ICTの活用は進んでいる。ただ、扱える教師とそうでない教師のリテラシー格差があるため、研修の充実が必要である。	①先生方の授業づくりが工夫されていることがよく分かった。 ②個々の生徒への評価について、保護者への理解していただくことが大切である。 ③教員の働き方改革の影響により、以前に比べ、学校と地域の連携やボランティア活動等への関心が低下しているように感じる。 ④タブレットも大事だが、その反面、書くことが苦手な生徒が増えている。基礎的な内容は書くことができる生徒の育成が大切である。
		「豊かな心」の育成	①「考え、議論する道徳」及び「心の教育」を推進する。 ②いじめ問題への対応力の向上に取り組む。 ③不登校の予防に努める。 ④体験活動等を通じて、生徒の主体性を育成する。	①週1回、人権道徳部会を開き、授業内容や情報交換を行う。全学年がローテーション道徳を行い、授業改善につなげる。 ②週1回、生徒指導委員会を開き、情報と対策の共有を行う。学年会や職員朝礼などで生徒の様子や各生徒への対策の共有を行う。 ③いじめフォーラムなどを通じて、生徒会が受けた刺激を全校集会などで全校生徒に共有する。 ④適宜、行事検討委員会を開き、情報交換や共有を行い、行事が安全・安心に実施できるようにする。また、行事の見直しも随時検討していく。	①生徒質問「自他への思いやり」「自尊感情」の肯定的回答が80%以上、教師質問「人権尊重」の肯定的回答が90%以上にする。 ②生徒質問「学校のきまりについて公平に指導している」の肯定的回答が85%以上、保護者質問「一貫した生徒指導」の肯定的回答が88%以上にする。 ③生徒質問「学校へ行くのが楽しい」、保護者質問「子どもは、楽しく学校生活を送っている」の肯定的回答をそれぞれ80%以上にする。 ④生徒質問「行事は楽しい」の肯定的回答が90%以上にする。	A	①生徒質問「自他への思いやり」「自尊感情」の肯定的回答は昨年を上回り90%となった。教師質問「人権尊重」の肯定的回答97%と、目標を達成することができた。 ②生徒質問「学校のきまりについて公平に指導している」の肯定的回答が90%、保護者質問「一貫した生徒指導」の肯定的回答が93%と、目標の数値は上回っている。 ③生徒質問「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答が86%と保護者質問「子どもは、楽しく学校生活を送っている」の肯定的回答が92%で目標を達成することができた。 ④生徒アンケート「学校行事は楽しい」の肯定的回答は昨年を上回り96%となった。準備段階から生徒主体での話し合いや検討を重ね、行事に向けて生産的な議論を行うことができた。	①目標は達成されているが、今後も授業研究を継続し、授業改善を図る。また、職員の人権研修を見直し、これまでの本校の取り組みを確認し、生徒への指導に活かしていく。 ②生徒一人ひとりの良さや個性を認め、温かい声かけを増やす。また、生徒の自尊感情を高め、魅力ある学校づくりに努める。 ③校内サポートルームの使用、時差登校、SCやSSW、関係機関との連携による心のケアを促し、登校につなげる。不登校支援員とも連携し、校内サポートルームでの対応を充実させる。 ④アレルギーや特別な配慮が必要な生徒への共通理解や物価高騰による内容の変更等の対応が、これまで以上に重要になってくる。	①SELを導入し、自他への思いやりや自己肯定感は向上している。 ②自己肯定感が向上してきている。今後も、生徒の自尊感情を高め、他者を思いやる教育を展開してほしい。	
		「健やかな体」の育成	①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	発達段階に応じた生徒の体力向上の促進	保健だより等を通して、健康管理について家庭への連携を図る。また、保健体育の授業やふりかえる帳(連絡帳)で就寝時間や、起床時間の確認、朝ご飯の摂取をしっかりと確認を行う。さらに、委員の生徒を中心に、学校保健委員会を実施する。	生徒質問「早寝早起き呼びかけ」と保護者質問「規則正しい生活の呼びかけ」の肯定的回答が80%以上にする。	B	生徒質問「早寝早起き呼びかけ」の肯定的回答が84%で目標を達成したが、保護者質問「規則正しい生活の呼びかけ」の肯定的回答が78%と目標を下回った。	毎年度、年度当初より、ふりかえる帳の朝食喫食の有無や、就寝起床時間の記載欄の記入の定着を図る。また、引き続き、保護者との連携を強化し、個別の対応を積極的に行っていく必要がある。	健やかな体を育成するためには、家庭との連携が大切である。これまで以上に、睡眠を中心とし生活習慣の改善を家庭に呼びかける必要がある。
	教育相談・支援体制の充実	①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	自ら未来を切り拓ける力を養い、進路選択等を支援し、教育相談を充実させる。	学期に1回教育相談週間を設け、事前に記入した教育相談アンケートをもとに生徒のメンタル面の状況把握に努める。また、年2回WebQ&Aを実施し、生徒の心的変化の早期発見につなげるようにした。さらに、必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーにつなぐ。	生徒質問「学校は将来の進路について、正しい情報提供や指導をしてくれる」と保護者質問「相談できる先生がいる」の肯定的回答が80%以上にする。	B	生徒質問「学校は将来の進路について、正しい情報提供や指導をしてくれる」が86%、保護者質問「相談できる先生がいる」の肯定的回答が83%で目標を達成することができた。	多様な相談内容に対応するため、チーム学校として、これまで以上に環境整備が必要である。また、昼休みや休み時間、放課後などの時間を使って、声かけの時間を増やす。	学校での学習が、将来の役に立たないと思っている生徒が多い。学ぶことの大切さを感じられる教育活動が求められている。	
	特別支援教育の推進	①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実	特別支援教育の充実を図る。	教育支援委員会を開き、対象生徒の実態把握や支援の方向性の検討を行う。また、特別支援教育支援員による支援を行い、支援のあり方について学級担任、教科担任と連携を行う。さらに巡回相談、学校園等コンサルテーションを活用し、要支援の生徒に適切な支援を行えるよう、専門的な立場からアドバイスを受ける。	教師用「組織的な特別支援教育」の肯定的回答が100%、「個別の指導計画作成」の肯定的回答が100%にする。	B	教師用「組織的な特別支援教育」の肯定的回答が97%、「個別の指導計画作成」の肯定的回答が97%で、目標を達成することができなかった。	組織体制をこれまで以上に整備し、コーディネーターの活用や相談体制の充実を図る。また、個別の指導計画については、年間スケジュールを作成し、計画的な作成を促す。学年会や懇談等で、教師間や保護者との連携を図る必要がある。	個々の多様性を大切にし、充実した特別支援教育を行っていかなくてはならない。	
	教職員の資質向上	①研修等の充実	研修等を充実させる。	定期的な研修会や夏季研修会、幼小中学校の合同研修会を実施し、教師の資質、指導力の向上を図る。また、自主教員研修(ブチ研)を計画的に実施する。さらに、校外研修については夏季休業中や時間に余裕がある時に積極的に利用するように周知する。	校外研修1人3回以上参加し、自主教員研修(ブチ研)7回以上実施する。また、服務に関する研修3回以上にする。	B	自主研修会(ブチ研)を、実践事例を具体的に話すなどの工夫した。研修会には、教職員だけでなく、事務職員も参加するなど学校全体での学びの場となった。教育委員会主催の研修会への参加者が増えた。	教職員一人ひとりが主体性を持って自己研鑽できるよう、総合教育センターからの案内などを活用しながら参加を促している。	これからの時代に求められる力を生徒たちが身につけるため、教員の意識をアップグレードし、授業の質を向上させる必要がある。	
教育環境の整備・充実	安全・安心な教育環境の充実	学校を支える組織体制の整備	①コミュニティ・スクールの充実を図る。 ②地域と学校の連携・協働体制の整備を図る。	①学校運営協議会を年3回開催し、熟議を重ねる。 ②生徒質問「目標がわかりやすい」の肯定的回答が85%以上、保護者質問「目標がわかりやすい」の肯定的回答が90%以上、教師質問「校長の方針は明確」の肯定的回答が90%以上にする。	B	①学校運営協議会を3回開催することができ、熟議することができた。 ②生徒質問「目標がわかりやすい」の肯定的回答が89%、保護者が89%、教職員が100%と目標を達成することができた。ただ、教職員「地域・保護者との連携」57%で、学校運営協議会の中で話題となり、働き方改革とのバランスをとることが難しい。	①今後も、学力向上、不登校対策、働き方改革等について熟議を進める。 ②部活動の地域展開を機に、長期休業中等の生徒の居場所づくりと地域のボランティアのニーズをマッチングさせ、WinWinの関係で取組を進めたい。	①今後、教師や生徒も学校運営協議会に入り、熟議を進めていきたい。 ②地域の高齢化が進んでおり、深刻な課題となっている。地域の若い世代の協力が不可欠である。		
		安全・安心な教育環境の充実	①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	①防犯訓練・防災教育の充実を図る。 ②安全・安心な教育活動の充実を図る。 ③子どもの交通安全対策の充実を図る。 ④学校施設の整備体制を整え、維持保全に努める。 ⑤学校における働き方改革を推進する。	①危機管理マニュアル等を活用し、的確な防災教育を実施する。 ②感染症対策や熱中症対策において未然防止に努める。 ③1年生を対象に関係機関と連携して自転車交通安全教室を行う。2年生を対象に保健の授業で交通安全について実施する。 ④毎月、安全点検を実施し、技能員や施設課等に依頼して修理・修繕を行う。 ⑤事業の目的、計画を確認し、見直しをもった取組を行う。	①防犯や災害が発生した際の対応を身に付けるため、年2回の訓練を実施する。 ②夏場は、WBGTを毎日計測し、活動の内容を検討する。 ③生徒質問「交通ルール」の肯定的回答が80%以上、保護者質問「交通ルール」の肯定的回答が95%以上にする。 ④生徒質問「教室、校舎の環境整備」の肯定的回答が90%以上、保護者質問「施設、設備を大切にする指導」の肯定的回答が95%以上にする。 ⑤教師質問「業務改善のために取り組みを行っている」の肯定的回答が90%以上にする。	B	①年2回避難訓練を実施することができ、万が一のときのために備えることができた。 ②夏場にWBGTを毎日計測し、熱中症対策を徹底することができた。 ③生徒質問「交通ルール」の肯定的回答が86%、保護者質問「安全ルールや自転車のマナー」の肯定的回答が95%と目標値に達した。 ④生徒質問「教室、校舎の環境整備」の肯定的回答が91%で目標を達成することができたが、保護者質問「施設、設備を大切にする指導」の肯定的回答が94%で目標を達成することができなかった。 ⑤教師質問「業務改善のために取り組みを行っている」の肯定的回答が91%で目標を達成することができた。	①危機管理対応マニュアルを見直し、学校の防犯・防災の体制を充実させる。 ②今後も、熱中症と感染症対策について検討していく。 ③毎年行っている自転車交通安全教室のみならず、部活動の引率や校外学習などその都度必要な交通安全への取り組みを積極的に行う。 ④環境美化については、美化のキャンペーンの実施や清掃の仕組みの再考をすることで、美化の意識を高めていきたい。 ⑤各行事の意義目的を見直し、教育活動の精選を行う。また、各分掌において	①いつどこで災害が発生するか分からないことを意識し、日頃から危機管理意識を高める必要がある。 ②安全・安心な教育環境を行うために、今後も対策を検討すべきである。 ③自転車に乗るのルールについて、今後も引き続き取り組んでいかなくてはならない。 ④安全・安心な教育環境について、今後も見直しが必要である。 ⑤部活動の地域展開で、今後の教員の働き方がどう変わるか注視したい。

学校関係者評価総括
 ・SEL(ソーシャル・エモーショナル・ラーニング)を導入したことにより、自他を大切にすることを育むことができた。
 ・授業の質を向上させるため、自由進度学習等に取り組むことで、生徒たちの学びの充実が図れている。
 ・学校・家庭と地域が連携し、学校運営の改善を図ることができた。

次年度に向けた重点的な改善点
 ・今後も、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる。
 ・すべての生徒たちが、松崎中学校を「自分の居場所」と感じられるような教育活動を展開する。
 ・生徒一人ひとりの多様なニーズを教員が共通理解し、丁寧に対応していく。
 ・今後も、地域とともにある学校づくりの推進に向けて、学校主体で地域と連携していく。